

—「統計の日」ポスター標語—

特選に選ばれて

統計課・商工農林グループ

主事 阿久津 修 一



大切なもの、忘れないで—統計は明日のための常備薬—

平成5年度「統計の日」ポスター標語で、全国1,382点の中から特選に輝いた本県企画部統計課・阿久津修一さんの感想が、「統計情報」7月号に掲載されましたので御紹介します。

「阿久津君、特選だよ。」

「えっ？」

「ひょうごだよ。ひょうご。」

「兵庫？」

「統計の日のポスターの標語だよ。」

こんな会話を普及指導グループの中村課長補佐と交わしながら入選したことを知らされました。

川崎総括補佐から

「一人1点は応募するんだよ。」

と言われて応募した標語の事を忘れていたので、総務庁からの通知を見て

「ああ、こういう標語を作ったんだ。」

とあらためて確認をする始末でした。

統計課に転動してきて2年目、今年度から商工農林グループに移り、初めて実査を担当し現場の状況を見なければ、このような標語は作れなかったと思います。

まだ、本格的な調査経験がないと言っていた東京都杉並区統計調査員の岡本さんの

「あなたは知っていますか

—データが私たちに語りかけていることを—
や、一人で2作品の受賞となった東京都足立区統計調査員の安棲さんの

「今日を知り明日に活かす統計調査」

「統計で“みつめる”“みなおす”地球の未来」等、他にも優れた作品が入選しており、どれが特選となってもおかしくない作品ばかりだと思いました。

統計課に転動になる以前は、茨城県立中央病院という所で病院事務に携わっていました。

統計の仕事をしていくうちに、この2つの異なった職種に共通点があることに気がつきました。病院は人を、統計は各地域、都道府県や国、または地球を、どちらも病にかかったときに直すものではないかということです。

標語を作るにあたって考えていたことは、まず、

横文字、カタカナ文字を使わない。そして、病院に関係する言葉を入れたい。この2点でした。それで常備薬という言葉が浮かんだのです。薬は健康なときには必要はありませんが、病気になったときに必要になる物です。また、予防のためにも使用します。統計も同じではないかと思った訳です。将来のために備えておけば、間違った方向へ進まないのではないかと。間違っても修正できるのではないかと。そういう意味を含めて常備薬という言葉を使用しました。また、標語全体については小山統計局長さんから頂いた講評のとおり、「統計を大切に、より多くの方に利用してほしい。」という気持ちを訴えたつもりです。

表彰式会場では、統計局長さんをはじめ、なかなかお目にかかれない方ばかりで、さすがに緊張してしまいました。それでも無事表彰式が終わり、その後は統計資料館を見学しました。統計資料館は道路に面していないので、一般の方にはわかりにくい場所です。資料館に入り階段を登って行くと、中には統計が分かりやすく紹介されていました。統計の歴史を記した年表、各種グラフ、統計を5分間程度で紹介した数種のビデオ、統計局で初めて導入した大型コンピュータ、またパソコンでは、誰にでも簡単に操作できるように作られた全国の各市区町村単位で分かる主要な統計、自分の収入や支出で分かる平均的家計費との比較などいろいろ揃っていました。私は資料館見学は2度目ですが、どちらも時間があまりなく一部分しか見ていません。全部見学できるよう、また伺いたいと思います。

最後に、審査していただいた総務庁の審査員の方々、標語が作れるような環境にある商工農林グループの中沢課長補佐はじめ課員の皆さんに感謝したいと思います。

ありがとうございました。

【新着資料案内】 【新着資料案内】

この資料は、平成5年9月中に行政情報センター・統計資料コーナーに到着した主なものです。ご利用下さい。
行政情報センター 本庁舎地下1階 TEL 0292-21-8111(内線2238・2239)

行政資料名	発行所(者)	行政資料名	発行所(者)
中央省庁関係		都道府県関係	
磁気テープの都道府県に提供される統計データ	総務庁	統計要覧 平成4年版	下館市
労働力調査特別調査報告 平成5年2月	〃	十王町第3次総合計画	十王町
防衛白書 平成5年版	防衛庁	統計要覧 平成4年版	協和町
保健所運営報告 平成4年	厚生省	川崎市市民所得 平成2年度	川崎市
工業統計表 用地・用水編 平成3年	通商産業省	市民経済計算年報 平成2年度	広島市
工業統計表 市町村編 平成3年	〃	都道府県関係	
工業統計表 工業地区編 平成3年	〃	新潟県経済要覧	新潟県
商業統計表 平成3年 流通経路別統計編	〃	千葉県年齢別・町丁字別人口 平成5年度版	千葉県
資源統計年報 平成4年	〃	商業統計調査報告(一般飲食店) 平成4年	東京都
石油等消費動態統計年報 平成4年	〃	神奈川県商業 一般飲食店 平成4年	神奈川県
エネルギー生産・需給統計年報 平成4年	〃	毎月勤労統計調査結果報告 平成4年	〃
建設白書 平成5年版	建設省	福井県刊行物目録 第9号 平成4年度分	福井県
建築統計年報 平成5年度版	〃	岐阜県統計書 平成4年	岐阜県
全国人口・世帯数表人口動態表 平成5年版	自治省	あいちの勤労 平成4年	愛知県
茨城県関係		あいちの鉱工業動向 平成4年	〃
茨城県での生活	国際交流課	三重県市町村累年統計表	三重県
災害の記録 平成4年	消防防災課	大阪の商業 一般飲食店 平成4年	大阪府
大気環境測定結果 平成4年度	公害対策課	大阪府統計年鑑 平成4年度	〃
養鶏試験場研究報告 平成5年	養鶏試験場	鳥取県の人口 平成4年	鳥取県
養鶏試験場年報, 茨城県 平成4年度	〃	商業統計調査結果報告書 平成4年	山口県
鹿行の家畜衛生 平成4年度	鹿行家畜保健衛生所	市町村民所得推計結果 平成元年度	徳島県
県地方労働委員会年報 平成4年版	地方労働委員会	佐賀県統計年鑑 平成4年版	佐賀県
市町村関係		沖縄県統計年鑑 第36回 平成4年版	沖縄県
日立市の統計 1993	日立市	会社・公社・団体等関係	
いしおか統計 平成4年版	石岡市	北方四島将来構想に関する基礎研究 要覧 1993	総合研究開発機構 神奈川大学

経 済 動 向

国内の動き

● 基準地価 2年連続下落

国土庁が発表した7月1日時点の都道府県地価調査結果(基準地価)によると、全国の地価は全用途平均で前年比4.3%下がり、2年連続の下落となった。分譲住宅の需要回復を反映して、住宅地の下落率は3.6%と昨年比べてやや縮小した。これに対して、商業地には景気後退などの影響が強くなって、下落率は7.7%と昨年より拡大した。

地域別にみると、東京圏では住宅地の下げ幅が12.3%と昨年より小幅ながら縮小した。これに対して東京圏の商業地の下落率は20.5%と、一割強だった昨年より大幅に拡大した。三大都市圏に比べて地価が遅れて動きがちな地方圏では、地価下落がさらに広がっている。
(9月21日付 日経)

● 公共工事着工額7.7%増

建設省が発表した7月の公共工事着工統計によると、同月の公共工事着工額(契約した工事の総工費)は1兆7885億円、前年同月比7.7%増と堅調な伸びとなった。

好調だった。

内訳をみると、地方自治体や地方公営企業などの合計である地方関連は1兆4981億円で、前年同月比14.5%増だった。都道府県は13.7%増、市区町村は10.3%増といずれも

また、官庁、公団・事業団、政府系企業の合計である国関連の着工額は2904億円で、前年同月比17.4%減。昨年比へ、東京湾横断道路や関西空港に関連した大型契約がなかった政府系企業が70.5%減と急減した。
(9月11日付 日経)

● 生命保険 解約増える

民間の生命保険を解約する人が増えている。生命保険協会のまとめによると、今年4月から6月までに生保が契約者に支払った解約返戻金は、国内で営業する30社の合計で前年同期比20.2%増となった。

約者が、貯蓄を目的に加入している個人年金保険などを解約するケースも多い。このほか保険会社の間では、ライバル会社の保険を解約して自社の商品に加入してもらう「乗り換え」が増え、解約が増える要因の一つとなっている。
(9月9日付 日経)

複数の保険に加入している契約者がそのうちの一部を解約しているのが主因だが、一時的にお金が必要になった契

県内の動き

● 茨城の経済、なお底ばい

常陽産業開発センターがまとめた最近の茨城県の経済動向によると、県内経済は在庫調整が進んでいるものの、個人消費が天候不順で落ち込み、公共投資も鈍化するなど、「全体としては依然底ばい状態にある」としている。

の大型小売店販売額は長雨、冷夏が響き264億8100万円、同8.4%減と21ヵ月連続で前年水準を下回った。8月の乗用車新規登録台数も5420台、同12.8%減と不振で、「購買意欲の減退傾向が続き、今後も伸び悩み傾向で推移する」としている。
(9月23日付 日経)

投資は、7月の新設住宅着工戸数が4006戸で、前年同月比19.4%増と8ヵ月ぶりに増加したが、消費は低調で、7月

● 冷夏の被害95億円

県農林水産部は、各農業改良普及所を通して、低温や日照不足、長雨などによる県内の農作物への被害状況をまとめた。県内の被害規模は計1万5335.9ヘクタール、被害金額は95億6289万8千円にのぼることが明らかになった。6月下旬から9月中旬にかけての全国的な低温や日照不足、長雨などの影響で県内全域で農作物への被害が発生。特に

水稻への被害が最も多く、被害規模は1万1892.4ヘクタール、被害金額69億2259万4千円となっている。次いで大豆が921.9ヘクタール、1億9927万2千円、陸稲が661ヘクタール、1億3604万2千円などとなっている。
(9月25日付 茨城)